

HIV感染症等をめぐる人権

感染を予防し、差別をなくすのは、正しい知識

1 ある日の出来事

「お兄さんの赤いリボン」

ぼくがお母さんと一緒に歩いていて、近所に住む大学生のお兄さんに会った。胸には赤いバッジ。「あら、可愛いわ。」とお母さん。するとお兄さんは、「これは、『レッドリボン』といって、エイズに関して偏見を持たない、エイズとともに生きる人を差別しないというメッセージなんですよ。」と教えてくれた。

「エイズ」という言葉にお母さんは少しとまどって、「エイズって怖い病気でしょ？」と聞くと、お兄さんは笑って答えた。「エイズを引き起こすHIVは、日常生活では感染しませんよ。だから、HIV感染者やエイズ患者などを避けたり、恐れたりすることはないんです。」

その夜、テレビを見ていると、レッドリボンを付けた人が出ていた。

エイズについてきちんと考えている人は、いろんなところにいるんだなあ。

2 考えてみましょう

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染して起こる病気です。体内のHIVを死滅させる治療法はまだ見つかっていませんが、現在では、薬の開発等により、早期に診断し、早く治療を開始することでエイズの発症を遅らせることが可能になりました。

3 HIV感染症等に関する正しい知識について

HIVの感染力は弱く、感染経路も限られており、職場や学校での日常的な生活では感染しません。

HIVは感染者の血液・精液・膺分泌液に大量に含まれており、これらを通じてHIVが体の中に十分な量が入ると、HIVに感染します。

HIVの感染経路

- ① 性行為
- ② 母子感染
- ③ 血液感染（注射の回し打ち、感染者からの血液・臓器の提供）

こんなことでは感染しません

- 握手、軽いキス、抱き合う
- せき、くしゃみ、汗や涙に触れる
- お風呂やプールと一緒にいる
- 食器や箸の共有、同じ皿の料理を食べる
- つい革や洋式トイレ、OA機器の共有
- 蚊やノミなどに刺される

（熊本県人権センター）

「くらしと人権」より

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

矢嶋姉妹の周辺①

平成21年11月1日の、TKUテレビ放送での「矢嶋帽子とその姉妹」で、郷土の先達の偉大な業績を知られたことと思います。

津森の杉堂に「城ヶ峰」と称される墓地があります。文字から中世の城跡の感じですが、城は古語で「キ」とも読み、キはまた靈魂↓鬼（キ）にも通じますので、城ヶ峰の城は靈魂のキを城に替えた、杉堂の人の先祖が祀られる聖域です。今は共同納骨堂が造られ整地されていますが、その一角に矢嶋家の奥津城が残され、中に「嘉永六年癸丑年

梅林院清香信女 矢嶋忠左衛門妻」の墓があります。これは、忠左衛門直明の妻で著名な矢嶋四姉妹を育てた母鶴子の墓です。四姉妹は有名ですが、鶴子のことはあまり知られず、筆者が各地で何度か行った鶴子の講演資料から抜粋して紹介します。併せて矢嶋姉妹に関わる逸話も、思い出すままいくつご紹介しようと思います。

まず「蘇峰生誕の家記念館」の歴史です。帽子の姉の徳富久子は、出産のために杉堂の実家に帰り蘇峰を産みました。今までは女子ばかりでした

ので、今度の出産は徳富家にとり男子出産の、期待に満ちた里帰りでした。

その後、矢嶋家は熊本市に移り、家を同村の森川氏に売り、森川氏はこの家で農家を営みました。買い取ったのは大正時代だったと故森川庄太郎氏から聞いています。

その後、昭和27年5月7日、蘇峰翁90歳の時、村民の歓迎を受けながら杉堂の生家を訪れ「生誕帖」を書き、森川家に残し、潮井宮境内で記念植樹をしました。ここには昭和8年3月に建てられた「徳富蘇峰誕生地碑」があります。また「生誕帖」は「益城町史」の口絵写真にあります。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策



城ヶ峰に残る矢嶋家の奥津城